

第一生命保険が毎年行っているサラリーマン川柳の入選作が発表された。今年も政府が働き方改革の旗を振っていることもあって長時間労働是正などに関する句が目立つ。「効率化 提案するため 日々残業」「生産性 部長の異動で 急上昇」など思わぬ言葉する句が多く選ばれている。

それにしても、こんなに余裕のない働き方になってしまったのはいつ頃からだろうか。私が役所に入ったのは40年以上も前だが、当時は季節になれば高校野球や大相撲を見ながらの勤務なら当たり前だった。そんなことをいって、それは役所だからだろうといわれそうだが、濱口桂一郎氏の「若者と労働」という本は、30年くらい前に銀行を定年退職した人の話として「俺たちの

### 話すへの話題



頃、だいたい3時にシャッターを閉めたらある程度仕事をし、その後、近所の子供たちの野球のコートをしていたというエピソードを紹介している。そういえば、私が小学生の頃に「サラリーマンは気楽な職業ときたまんだ」という歌（榎本等のドント節）がはやった。森繁久彌主演の映画「社長シリーズ」では、三木のり平やフランキー堺などがけんやわんやの仕事ぶりを繰り広げ、出世すれば会社人生はこんなものだという「夢」をサラリーマンに与えていた。そんな映画や歌謡曲がはやっていた中で実現したのが高度成長だったのである。

人は幸せを感じるときに効率よく仕事をするといい。働き方改革には、長時間労働是正といった数値目標を超えた視点が必要だろう。サラリーマン川柳のベスト10は、インターネットなどでの人気投票を実施して1月下旬に発表される。どんな川柳が選ばれるか楽しみだ。

人は幸せを感じるときに効率よく仕事をするといい。働き方改革には、長時間労働是正といった数値目標を超えた視点が必要だろう。サラリーマン川柳のベスト10は、インターネットなどでの人気投票を実施して1月下旬に発表される。どんな川柳が選ばれるか楽しみだ。